

三省堂

地理小事典

第3版

監修

三野与吉 | 町田 貞

編修

三省堂編修所

三省堂

地理小事典

第3版

監修

三野与吉 | 町田 貞

編修

三省堂編修所

三省堂

1963年11月10日 初版発行
1973年2月20日 第2版発行
1982年10月1日 第3版発行



N.D.C. 番号 290

三省堂 地理小事典 <第3版>

定価 980 円

1982年10月1日 第1刷発行

編者 三省堂編修所

発行者 株式会社 三省堂 代表者 上野久徳

印刷者 三省堂印刷株式会社

発行所 株式会社 三省堂

〒101 東京都千代田区三崎町二丁目22番14号

電話 編集 (03) 230-9411

販売 (03) 230-9412

総務 (03) 230-9511

振替口座 東京 6-54300

<3版地理小事典・424 pp.>

Printed in Japan

落丁本・乱丁本はお取替えいたします

序

今日、学問の諸分野は、社会の急激な発展に伴ってますます複雑多岐にわたり、高度に専門化しつつある。事典にあってもこの傾向が強く、教育上、初学者の学習に役だち、かつ高度の内容を理解するためのものは意外に少ない。このようなときにあたり、小社は「三省堂小事典」シリーズを企画し、出版することとなった。

これら小事典シリーズは主として、高校生の学習と受験、および大学一般教養課程にある学生のハンディな教養事典たることをねらいとして編修した。

あらゆる教科の学習において、その術語・用語の暗記や理解だけが、目的のすべてでないことは明白であり、科学的・論理的な物の見方、考え方を養うことが究極の目的であることは論をまたない。しかし、そのための重要な手がかりとしては、やはり基礎的な術語・用語の正しい知識と理解を忘れることはできない。

「三省堂小事典」は高等学校の教科書・専門辞典類・新聞・雑誌などから約2万語の語彙を抽出し、厳選して約4,500項目を決定した。原則として小項目主義をとり、平易な表現のなかにも新しい学説と高い内容を盛り込むことに努力した。

御多忙のなかを数次に及ぶ編修会議に出席され、校閲の労を惜しまれなかった先生方、および専門分野を担当執筆してくださった先生方に対し、厚く御礼のことばを申し上げたい。

1963年9月

三省堂編修所

第3版の序

「地理小事典」は読者の好評に支えられ、第2版発行後10年、初版から20年近くの歳月を経過した。このように長く読者の支持を得られたことは、当初からの編修方針である高校生の学習と受験、および大学教養課程にある学生の教養事典にふさわしい内容を盛り込むことができたからであろう。しかし、その間、学問は進歩し、社会状況はめまぐるしく変化しており、本事典の内容も学説やデータの入替え、新項目の挿入等々、状況に対応し、読者の要望に応じていくものでなければならなくなった。

今回の改訂では、以上に加えて新高等学校学習指導要領の実施が行なわれ、それに伴う内容の変更についても改訂の主眼の一つとした。

第3版発行に際して、校閲および執筆に御協力いただいた先生方に対し、厚く御礼のことばを申し上げたい。

1982年9月

三省堂編修所

凡 例

I 見出語

1. 見出語は「かな見出し」と「漢字見出し」を併用し、「かな見出し」は現代かなづかいを用いた。例, おんたい 温帯
2. 見出語が外国語の場合は「かな見出し」を“カタカナ,, で表わし, 欧字綴りを併記した。
例, ウール wool, シマ sima
3. 人名項目については見出語のあとに生没年を併記した。
例, ウォーレス Wallace, Alfred Russel (1823~1913)
4. 他に説明のついた同義語, または類似・関連語がある場合は, カラ項目とし, 同義語は =, 類似・関連語は → をもって説明のある本項目へみちびいた。
例, 同義語は: ふくせつこく 複節国 =多節国 類似・関連語は: ちし 地誌 →地誌学
5. 本事典における見出語については, 主として文部省の「学術用語集」に準拠したが, 一般の慣用をも重視した。

見出語の配列

1. 現代かなづかいによる五十音順を用いた。
2. 「カタカナ見出し」の長音「ー」は無視して配列した。
例, アーチダムはアチダム
3. チョ・ニュなどの拗音, およびッ・っなどの促音の配列はチヨ・ニユおよびツ・つとして配列した。
例, フォッサマグナはフオツサマグナ, どじょうはどじよう
4. 濁音, 半濁音をとった「かな見出し」が同じ場合は, 清音・濁音・半濁音の順に配列した。
例, はり 針, バリ Bari, パリ Paris の順。

II 本文

1. 本文は常用漢字・現代かなづかいであることを原則とし, 誤読・難読のおそれのあるものは割りルビを本文中初出の漢字についてだけ付した。
2. 本文中にでてくる生物名・外国語・外国人名・外国地名は原則としてカタカナで表わした。
3. 他項目の見出語で本文および付表中にでてきたものについては, 本文中最初のものについてだけ語の右肩に * を付した。 例, ビタミン*
4. 本文中の術語または見出語に関連した項目があつて, その項目を参照することにより理解を助けるような場合は, 本文中または文末に → で関連項目へみちびいた。

III 記号

m:メートル, cm:センチメートル, mm:ミリメートル, °C:度(摂氏)
μ:ミクロン, Å:オングストローム, g:グラム, cc:立方センチメートル, l:リットル, kcal:キロカロリー, ha:ヘクタール, mol:モル, V:ボルト, W:ワット, N:規定, pH:水素イオン指数, ‰:千分率(パーミル), m/sec:秒速…m, °:度

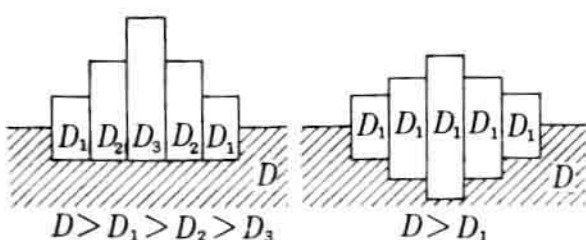
あ

あい 藍 染料用および薬用のタデ科植物。高さ約60cmの一年草。染色用に使うのは、葉を乾燥し水を加えて発酵させて白(♀)でつきアイ玉を作る。このアイ玉に木灰や石灰水を加えて30～40℃の温度に保つと、成分のインジゴ*は水にとけ、この中に布をいれて染める。原産地はインドシナで、中国を経て日本に伝わった。江戸時代に徳島県吉野川下流域で蜂須賀(藩)の保護により栽培したが、明治以後はインドアイの輸入や、ドイツの人造染料インジゴのため、アイの畑は桑畑・野菜畑に切り替えられ、現在はほとんど栽培していない。

アイエルオー ILO =国際労働機関
あいずぬり 会津塗 福島県の会津若松地方で生産される漆器*。藩政時代からの酒造・陶磁器*・織物などの家内工業*の一つで、原木のブナ・トチなどと塗料のうるし*と柿の木(柿渋)が多いことから成立した。丈夫で耐久性があるのが特色。

アイセルこ Ijssel 湖 ゾイデル海ともいう。オランダの北西端にある内海*。中世時代は湖であったのでアイセル湖とよばれた。その後沈降して北海につながり、アイセル海となった。現在は1932年に完成した堤防*で北海と隔てられ、その干拓*が進んでいる。干拓地はポルダーとよび、オランダ国土の約25%をしめ、世界的な干拓地として名高い。ポルダーは海面より低いので、雨水・地下水*などのたまった水は電力や風車*により排水する。ここではおもに酪農*や、チューリップなどの球根栽培がさかんである。

アイソスタシーせつ isostasy 説 地殻均衡説ともいう。地殻*を造る物質の分布についての学説。地殻の表面には著しい起伏があり、大山脈とその下には密度の小さい物質が厚く、大洋の下には密度の小さい物質は薄く、大きい物質(マントル*)が海の底近くまであり、ある深さで平衡が保たれているという考え。その深さは30～60km。この学説にはプラット説とエアリー説とがあり、マントルの密度を D とすると、前者では山地の物質はその下にある物質の上に浮かんでい



【プラット説】 【エアリー説】

て、地殻の密度($D_{1\sim3}$)は高地と低地で高さに反比例する関係にあって、地殻の下端では圧力が等しい。後者では地殻の物質の密度(D_1)は土地の高低にかかわらず一定で、その下端の面は表面の起伏に応じた凹凸があって、ある深さでちょうどその上の圧力が一定になっている。

あいちようすい 愛知用水 愛知県の中央部を南北に通ずる用水路を中心とする多目的な水利計画。木曾川の水を愛知県境に近い兼山(岐阜)ダム(岐阜県)に取り入れ、濃尾平野の東部の丘陵地帯から、知多半島の先端まで、南北方向に通じる幹線用水路(112.2km)を造り、これによって知多半島の農業用水*の不足した地域をうるおし、米・麦の増産をねらい、また名古屋市に工業用水*を、半田市その他の上水道用としても使用する。年間発電量1.3億kWh、灌漑(農)地は約3.3万ha、山林原野の造成は0.28万haに及ぶもので、1955年に発足した愛知用水公団が、1957年より5ヵ年計画で着手し、総工費423億円のうち約25億円は世界銀行から融資された。1962年8月に兼山ダムから通水した。

アイディーエー IDA =国際開発協会

アイヌ Ainu 北海道に住む少数民族*。かつては千島・樺太にもいた。人種学上では所属不明で、ヨーロッパ人種*とモンゴル人種*の混血らしく、人種島*を形成した。皮膚はばら色、長頭、髪の毛は黒色波状毛。古代には東日本全般に住み、えぞ・えびすなどとよばれた。アイヌ語を話し、口のあたりにいれずみをし、ニレの樹皮の繊維で作ったアツシ織を着て、狩猟・漁労・焼き畑を行ない、生活様式は原始的であったが、日本文化との接触により同化され、現在の人口は約17,000あまりで、減少する一方である。北海道の白老(釧路)・平取(釧路)・近文(釧路)などに部落を作って住んでいる。

アウストロネシアごぞく Austro-nesia 語族 マライーポリネシア語族ともいう。インドネシア語・メラネシア語・ポリネシア語の三つに分ける。西はマダガスカル島から東はイースター島(西経約110°)の言語(ラパヌイ語)まで、南洋・ハワイ諸島の土語なども含む。広い水域に分散する諸島、マライ半島・台湾の高砂(琉球)族で使用するが、オーストラリア大陸とニューギニア(パプア島)と、その付近2,3の小島の言語を除く。

アウタルキー autarky 自給自足の国民経済のこと。厳密には一国が自国内で生産供給する状態で、対外依存せず孤立した国民経済をいう。現在では厳密なアウタルキーの国は考えられない。かつて20世紀初頭に先進資本主義国家が植民地を独占支配した

ために、原料および市場のせまい日本やドイツはアウトアルキー的色彩をもたされた。1929年の世界恐慌後、国防と国際収支の健全化から、数か国がブロック経済を確立した。これも広い意味のアウトアルキーである。

アウトバーン Autobahn ドイツの高速自動車専用道路。ベルリンから放射状にできるものと、これらを連結する環状のものがある。立体交差式で、できるだけ直線になるように建設してある。幅は23~26m, 中央に5m 幅の緑地帯をはさみ, 7.5m 幅の車道と2m 幅の側道がある。1933年ヒトラーが建設に着手し, 当時全長約300km。現在も建設が伸張している。

アエタぞく Aeta 族 フィリピンに住むネグリティ族* 系の小黒人種の総称。ちぢれ毛・短身で皮膚は黒色。フィリピン住民のうち古い民族* で, モンゴロイド系統。移住により辺境地に後退し人口わずか3万となり, ルソン島の東岸山脈, 北部の沼沢地, ミンダナオ島の東部, パラワン島中央の北部に住む。20~30人の集団で, 狩猟*・漁労*を行ない放浪生活をしていたが, しだいに焼き畑農業*に変わり定着しつつある。

あえん 亜鉛 鉛*に似た青白色の金属。セン亜鉛鉱などから硫酸*で不純物を除き, 電気分解して精製する。用途は亜鉛引鉄板(トタン)や, 亜鉛ダイカストとして機械の部品に使う。生産国はソビエト連邦・日本・カナダ・アメリカ合衆国・オーストラリアなどで, 消費国はアメリカ合衆国・ソビエト連邦・日本・イギリス・西ドイツなど。日本では神岡(岐阜)・花岡(秋田)・小坂(秋田)・豊羽(北海道)などの諸鉱山で鉛といっしょに生産されることが多い。

あえんこう 亜鉛鉱 亜鉛*をとるための鉱石。亜鉛は酸化物や硫化物, そのほか塩類として存在する。セン亜鉛鉱と菱(りやう)亜鉛鉱から亜鉛をとる。

あおがりだいず 青刈大豆 未成熟のダイズ*。根粒(こんりゅう)の窒素と葉茎とを肥料*にしたり, 茎と葉を飼料にする。

あおがりとうもろこし 青刈玉蜀黍 未成熟のトウモロコシ*。早く収穫して茎や葉を飼料や緑肥とする。

あおたうり 青田売り イネの刈入れ前に収穫量を見越して米*を売ること。第二次世界大戦前に米が自由販売されていた時期にみられた。東北・北陸の貧農が収穫前の8月の旧盆が近づくと生活に困り, 田の米を米穀商に売った。米穀商は安値で買って利益をあげた。

あおもものいちば 青物市場 野菜・果実を取引する市場で, 都市生活者に必要な青物が取引され小売店に配分される。大都市の

有名な市場には東京の神田青物市場・名古屋の枇杷島(りやう)・大阪の天満(てんまん)青物市場などがある。

あかざがたみんか 赤城型民家 切り落とし屋根*の民家で, 赤城山ろくの農家に典型的に発達しているのでこの名がある。

アカシア Acacia ネムの木に似た羽状の葉と枝に針をもつマメ科の常緑樹。インドから東アフリカに多く, 樹皮からタンニンをとるため栽培する。薪炭材・家具材などに利用される。わが国でアカシアとよぶのはニセアカシアで, 別の属のもの。

あかしお 赤潮 プランクトン*が一時に多数発生し, 海水が赤かっ色にみえる現象。淡水や汚水がはいる付近にしばしば生じ, 激しい雨が降ったあと, 急に気温が高くなる時におこりやすい。発生の機構についてはよくわからないが, 魚貝類に多くの被害を与える。東京湾のアサリ, 英虞湾(えいよ)の真珠貝養殖, 瀬戸内海のはまち養殖などに被害を与えることもある。

アガラスかいりゅう Agulhas 海流 モザンビーク海流ともいう。アフリカの南東部とマダガスカル島*の間のモザンビーク海峡*を通り, アフリカの南端, 喜望峰近くの岬の付近で急に流路を南に変え, 大部分は西風海流*と合体する暖流*。

あかんそうきこう 亜乾燥気候 = ステップ気候

あかんたい 亜寒帯 = 冷帯

あかんたいきこう 亜寒帯気候 = 冷帯気候

あかんたいしつじゅんきこう 亜寒帯湿潤気候 = 冬季湿潤寒冷気候

あかんたいていきあつたい 亜寒帯低気圧帯 海面上の平均気圧を緯度 15° ごとに比較すると, 0° と 60° の緯度の気圧が低い。この緯度 60° 付近にある低気圧地帯を亜寒帯低気圧帯という。大陸上ではほとんどなく, 北半球ではアイスランド付近・アリューシャン付近に出現する。これは両極を取り巻いて東風がよく吹く地帯と偏西風帯*との境界にあたる地帯で, 低気圧*や前線*が発達し, 暴風がおこりやすい。特に南半球*の場合には緯度にそって暴風帯となり, 捕鯨船団が漁場への往復に難航する。

あかんたいなつあめきこう 亜寒帯夏雨気候 = 冬季乾燥寒冷気候

あきおちすいでん 秋落ち水田 イネの収穫期になってイネの実りが急に落ちる水田*。これは肥料*の投入が充分であっても, 土壌*中の成分(たとえば鉄分など)が不足しておこるもので, 秋落ち現象ともいう。鉄分の多い赤土の客土(きやくど)や尿素・ケイ酸肥料などの新しい肥料の発明や, 早期収穫法によっ

て秋落ち現象は減少している。

あきたすぎ 秋田杉 秋田スギの本場は米代(姥)川流域の山地で、国有林と民有林が半々である。青森のヒバと同様に、秋田藩の保護奨励により藩有林と民有林とが育てられ、藩有林は明治維新の際に国有林になった。特に美林を残しているのは大館(巖)と小坂間の山地。スギの伐採は農閑期*に行ない積雪を利用する。森林鉄道*で大館・鷹巣(鷲)などに集荷し、能代(雫)市で製材する。

あきまきこむぎ 秋まき小麦 =冬小麦

あくち 悪地 バッドランドともいう。雨水の侵食*によって生じた小谷と、細かい峰が無数に発達して通行困難な地形*。世界的にみると、降水量*が少なく植物被覆に乏しい乾燥地域*に多い。アメリカ合衆国の南ダコタ州西部や、中国の黄土*(塹)地帯などによく発達している。わが国では瀬戸内海沿岸や、美濃三河高原などの花コウ岩*地方にみられ、丘陵*の斜面が深さ1～2mのV字谷で無数に刻まれ、谷底は幅2～3m程度の平坦地となっている。

アークライト Arkwright, Sir Richard (1732～1792) イギリスの紡績機の発明家。ランカシャーに生まれ、初め床屋になったが、ハーグリーブス*のジェニー紡績機が横糸だけを紡いだのに対し、縦糸を紡ぐ紡績機を発明して特許をとった。最初、馬力で動かしたが、のち水力によって運転できるようにしたので、水力紡績機とよばれた。ワット*の蒸気機関の発明後、これで運転できるようにした。

あぐりあみ 揚繰網 巻き網*の一種で、江戸末期に発明された。10～50トンの木造和船2隻によって網をたらし、魚群を包囲してから網のすそを人力または機械力によって上の網よりも手早く繰り上げて漁獲する。沖合漁業*の漁具として、特に千葉県の下九里浜沿岸で広く用いられた。イワシ*・サバ*・アジ*・サンマ*・カツオ*・マグロ*などの浮遊魚を対象とするが、特にイワシを漁獲するのに用いる場合が多い。→巾着(袋)網

アグリビジネス agribusiness 農業に資材を供給する化学肥料・農薬・農業機械・飼料メーカーと農産物の購入を行なう食肉・牛乳加工業等の農業関連企業。いずれも農業とは規模の異なる資本力の強い独占企業体によって支配されている。アグリビジネスは主として垂直的統合などの形をとり、プロイラー*生産にみられる飼料メーカー、飼料商人が飼料・ひなどり・薬材を供給し、農民が労働力と設備を提供するケースはその典型例である。

アクロポリス Acropolis 古代ギリ

シアの都市国家*(ポリス)では要塞(巖)の丘を中心に、政府機関のある市街地があり、その周囲を田園が取り巻いた。この丘をアクロポリスといい、アテネのものが最も大規模で、アテナを祭るパルテノン神殿をはじめ、多くの神殿や劇場があった。今日ではギリシアの代表的な史跡・観光地になっている。

あげはましきえんでん 揚浜式塩田 満潮時の海水面より相当高い砂浜に作られる塩田*。海岸から海水をくみ上げ、運搬して塩田にまくもので、労働力を多く費やし不利である。昔は全国各地で行なっていたが、現在ではほとんど行なわれていない。

アゲーブ Agave →サイザルアサ

アケメネスおうちょう Achaemenes 王朝 古代のペルシア帝国の王朝(7世紀 B.C.～331 B.C.)。イラン民族の一派が紀元前7世紀にイラン南西部のファールス地方に興り、のちに小アジアにあったギリシア人の植民都市やバビロンなどを占領、隆盛期には西アジアから北西インドにまたがる古代オリエントのほとんど全域を支配した。征服した民族の文化に干渉しないという寛大な方針をとり続けたために、ペルシア文化はそれらの多くの民族文化の影響を受けて多彩になったとみられている。紀元前5世紀には数回のギリシア遠征を試みたが多くは失敗し、紀元前331年ダリウス三世のときアレクサンダー大王に滅ぼされた。なお、前記のファールス地方は古くはパールスとよばれたが、これが転じてペルシアとなったとされている。

あこう 赤榕樹とも書き、アカホ・アコギ・アコノキともいう。ガジュマルの一種。クワ科の高木で高さ約20m、春に葉全部が落ちることもある。幹は太く幹や枝から気根をだし、地面に達して支柱状の根になる。材質は柔らかくて軽く、細工ものやたきぎ材にする。日本の西南暖地の海岸に自生し、潮風に強いので防風林*やいけがきに利用する。愛媛県三島村と、佐賀県入野村のアコウ樹林は日本の北限として天然記念物*に指定されている。

あごわん 英虞湾 三重県の東端、志摩半島の南部にある湾。沈水した海岸*で湾の水深が深い。そのため海水の温度が安定しているのを利用して、真珠の養殖が行なわれる。ここのアコヤガイで養殖する真珠は御木本(鶴)パールの名で世界的に名高い。また、付近は伊勢志摩国立公園に指定され、景勝の地で内外の観光客が多い。→真珠貝養殖

あざ 字 日本で古くから残っている行政上の小さい区域名で、昔開墾したときの一角に名づけられた。1889年(明治22)市町村制施行のとき、字をいくつかずつ集めて大字とした。これは町村の下部組織で地縁的関係が強い地域集団である。

あさかそすい 安積疏水 福島県安積郡一帯の灌漑(給)用水をいう。1879年(明治12)10月工事を開始し、1881年8月完成した。猪苗代湖(琵琶)の水を東岸から用水路でひき、多くのトンネルで安積郡一帯(今の郡山市の西方)に給水したもの。その後、もう少し高い山ろく斜面に通水する新用水路を1951年(昭和26)に完成し、旧水路による3,000haとあわせて約5,300haに及ぶ大灌漑面積となった。郡山市の製糸・紡績・カーパイド工業などの電力は安積疏水の沼上・竹内などで1895年に開始した発電所によるもので、郡山市の工業発展に及ぼした影響は大きい。

あさこうぎょう 麻工業 植物繊維である麻の繊維に加工する工業*。麻には亜麻*・大麻*(苧)*・苧麻*(苧)*・ジュート*・マニラアサ*などがある。亜麻工業は中世ヨーロッパで家内工業*として広く行なわれていたが、特にフランダースのガンを中心とするレース編み工業が有名。その他イギリスのダンジー、インドのカルカッタは黄麻(ジュート)工業、わが国では札幌の亜麻、栃木の大麻工業などが有名。

あさなぎ 朝凪ぎ 日本の海岸では、夏の日中は海上に比べ陸上が高温になるため、陸上の空気が暖められて軽くなり気圧が低くなる。そのために海上から陸へ海風*が吹く。夜間には気圧配置*が逆になって陸上から海へ陸風*が吹くので、朝と夕方には風向きの交代期がある。この朝の風の変わり目の無風状態を朝なぎ、夕方のを夕なぎ*という。日本では夏季晴天の日に明りようであるが、熱帯*では年中みられる現象である。

アーサー=フィリップ Arthur Phillip =フィリップ

あさやけ 朝焼け 日の出の際に東の空が薄紅色、日によっては燃えでるような色になる現象。この現象は太陽が地平線に近い所にあるため、光が厚い大気*の層を通り、その大気中の細塵(説)のため散乱し、長い波長の光だけが地表に到着するためにおこる。夕焼けとは多少異なり、赤インキを薄めたような色で、台風*の前日には黒みを帯びる。朝焼けの美しいときには雨、特に色があざやかな場合は晴れである。

アジア-アフリカかいぎ Afro-Asia 会議 AA 会議・バンドン会議ともいう。1955年4月にアジア-アフリカ諸国の代表29か国が、ジャワのバンドンで開いた国際会議。これには白色人種は参加せず、相互の経済協力・平和国家の建設・核実験停止など世界平和と協力促進に関するバンドンの10原則を宣言した。その後1957年にはエジプトのカイロでアジア-アフリカ諸国民連帯委員会*が開かれ、バンドンの10原則を確認した。

アジア-アフリカグループ Asia-African group AA グループともいう。

アジア-アフリカの国際連合の加盟国で構成するグループ。最初、アジア-アラブグループとして発足したが、後にアフリカを加えた。国連内では非公式グループであるが、アジア-アフリカ会議*が開かれ、反植民地主義と民族自決のいわゆるバンドン精神をうちだしてから、国際政治のうえで、重要な比重をもつようになった。現在では、容共・中立・親西欧的反共など国によってさまざまで、歩調は一致していない。

アジア-アフリカしょこくみんれんたいいいんかい Asia-Africa 諸国民連帯委員会 アジア-アフリカの諸国民の団結と連帯をはかり、反植民地主義・民族主義による完全独立を目的として1957年第1回会議をエジプトのカイロで開催。アジア-アフリカ会議*が発展したもので、国連ではしばしば各国が一致した行動をとり国際世論をリードした。

アジアかいはつぎんこう Asia 開発銀行 ADB (Asian Development Bank) ともいう。アジア太平洋地域の発展途上国*に対して開発資金を融資する国際銀行。1966年東京で創立総会が開かれ、初代総裁には日本人になった。本店はフィリピンのマニラにあり、加盟国は日本・韓国から南アジアのアフガニスタンやオーストラリア・ニュージーランドの域内29か国とアメリカ合衆国・イギリス・西ドイツなど域外14か国。

アジアきせつふう Asia 季節風 温帯モンスーンともいう。アジア大陸の東岸、および南岸にみられる最も大規模な季節風*。アジア以外の大陸にもみられるが、最も大きな大陸であるアジア大陸と、最も大きな海洋*である太平洋との間では、気圧の差が大きく、気圧傾度*が大きいいため強い季節風が吹く。インドでは南半球*の南東貿易風が赤道*をこえ、南西の季節風になるため、夏の季節風が強く、中国・日本では冬季の季節風が強いので、そのため冬季に寒さを強く感じる。

アジアきせつふうちいき Asia 季節風地域 インド・インド-シナ半島*・中国・日本などのアジア大陸の南岸、および東岸の季節風*の明りような地域。気温は熱帯*から冷帯*までの変化があるが、雨の降り方は地域により例外もあるが季節風に支配され、夏季に集中する。季節風による夏季の高温多雨に依存する小規模で集約的な水田耕作を中心とする稲作農業の地域で、周辺部で畑作を行なう。台風*そのほかの原因による洪水*や干魃*(説)の被害を受けやすい。なお、世界で農業人口の最も集中している地域である。

アジアしきのうぎょう Asia 式農業

→アジア式畑作農業・アジア式米作農業

アジアしきはたさくのうぎょう Asia 式畑作農業 中国の華北、朝鮮、日本などで零細な畑地に多くの肥料*と多くの労働力を投入して、自給用の麦類・雑穀類を栽培する集約的自給畑作農業をいう。華北東部の麦類とコウリャン*、華北西部の麦類とアワ*、満州のダイズ*などが代表的作物である。

アジアしきべいさくのうぎょう Asia 式米作農業 東南アジアの季節風帯*のデルタ*を中心として、零細な水田*に多くの家族労力と、牛馬を使役して高い収量をあげる集約的米作農業。雨季*と暑熱が一致し、デルタの多い東南アジア一帯で米作*が行なわれ、世界の米*の約 90 %を生産する。米作の方法は、人口が多いのを利用した手労働の集約農業であり、主食中心の自給農業である。そのため耕地の零細化、高い土地生産性*と低い労働生産性*が特色である。

アジアじんしゅ Asia 人種 おもにアジア州に住む黄色の人種*。アジア人種には、アジア州およびその付近に住むものとして、日本人・朝鮮人・ツングース人*・モンゴル人*・漢族・ミャオ族*・チベット族*・インドシナ族*などがあり、ほかの州に住むものには、フィン族*・ラップ族*・エストニア人・マジャール人*などがある。

アジアてきせいさんようしき Asia 的生産様式 灌漑(給)農業*による生産力の発展によって生じた、アジア特有の未発達な奴隷所有的生産関係。個人が共同体内にあって政治的主権者に隷属し、結合的統一体を構成し、強力な専制と搾取の基礎となり、アジアの停滞性の原因となったとされている。マルクスが『経済学批判』の序文中で人類社会の生産様式の最初の段階として取り上げたが、後 1939 年『資本制生産に先行する諸形態』の中で明らかにしたもの。また、1926～27 年の中国革命に関する論争が契機となって、ソ連学界で大討論され、世界的論争をよんだこともある。

アジアモンスーンたい Asia monsoon 帯 =アジア季節風地域

アシェンダ hacienda 大地主による土地所有の制度。メキシコやアンデス諸国にある。労働者の住居・教会・売店などを含む大農場で、甘蔗(糖)*・コーヒー*・カカオ*・綿花*・コムギ*などの栽培を行なう。労働者は原住民・黒人*・メスチゾ*などで、警察権・司法権を掌握している地主の権力下で、中世の農奴的生活を送っている。この土地所有の形態もしだいに変化しようとしている。アルゼンチンのエスタンシア*、キューバ・グアテマラのフィンカ、ブラジルのファゼンダ*もこれと同様である。

あしぶみすいしゃ 足踏み水車 足で踏んで車軸を回転させ、水をくみ上げる水車*。原始的な水車で、東南アジアの米作*の灌漑*(給)に多く用いる。日本でも灌漑用揚水機の普及前には用いられた。

アースダム earth dam 粘土*・赤土・砂*などで造ったダム*。これらを適当に混合してローラーで固め、水がもれないようにし、水圧にも耐えられるようにしたダムと、さらに水止めを完全にするために、ダムの中央に粘土、またはコンクリートの壁を造ったダムとがある。水がダム頂をこえて流れるとこわれるから、洪水*の少ない地方に造る。これと似ているダムに岩石を積み重ねて築いたロックフィルダムがある。北上川支流の石淵ダム、愛知用水*計画の一部になった王滝川の牧尾ダムはこの例。

アズテックぞく Aztec 族 →アズテック文明

アズテックぶんめい Aztec 文明 6 世紀ごろユカタン半島を中心に栄えたマヤ文明や、その後これに代わったトルテック文明に続いて、14～15 世紀ごろメキシコ高原にアズテック族がうちたてた文明。国王を頂点とする封建制度を維持し、戦争を好んだ。多神教で神に動物その他の供物や、捕虜を人身ごくうとして供えた。金銀細工・織物・編み物・羽毛製品に特有な技術を示したが、大陸発見時代にスペイン人に征服された。

あすなろ →ヒバ

アスピーテ aspite =楯(たて)状火山

アスファルト asphalt 原油の蒸留がまに残った油から製造する黒色の柔らかい固体。道路舗装用・防水防湿用紙・電気絶縁テープなどに用いる。

アスワンドム Aswan Dam ナイル川の河口から 1,200km のアスワンに建設したダム。1902 年にアスワンの南 5km の地点にイギリスの資本によって完成した。このダムによってナイル川の洪水*を防ぎ、ダムの下流に灌漑*(給)地域を広げ、三毛作を可能にした。

アスワンハイダム Aswan High Dam ナイル川のアスワンドム上流 7km に造られた史上最大の総合開発ダム*。ソビエト連邦からの借款と技術援助で 1960 年に着工し、アブ・シンベル神殿などの移転作業のため進捗が遅れたが、71 年初めに完成。幅底部 1km、高さ 110m、長さ 3.5km で、これにより 80 万 ha の農地造成、年間約 80 億 kWh の電力生産による肥料・鉄鋼などの工業化の進展がはかられたが、塩害等の問題も起きている。

あぜくらづくり 校倉造り 三角材または四角材・円材を井げたに組み合わせて側

壁とした建築様式。木材の豊富なシベリアのタイガ*地帯，ヨーロッパ北部，スイス・インドシナなどの住居建築として，また日本では古くから倉の建築に用いた。日本の校倉は二等辺三角形の校木(ぎょうぎ)を底辺が内側になるように組み，床が高い。高温多湿のときは木質が膨張して密着し，乾燥したときは収縮してすきまができ，自然に換気が行なわれる。正倉院や唐招提(きやうてい)寺の宝蔵が有名。

アゼルバイジャンじん Azerbaizhan 人 ソビエト連邦のザカフカス(外カフカス)地方東部とイラン北部に住む。白色人種のトルコ系に属し，短頭・中身で，毛髪・瞳も黒い。言語はトルコ語系に属すアゼルバイジャン語を話し，シーア派のイスラム教徒である。ソビエト連邦領に住むアゼルバイジャン人の多くがアゼルバイジャン社会主義共和国に住んでいる。

アSEMBルこうぎょう assemble 工業 組立工業ともいう。多くの部品を集め組みたてる工業。たとえば，自動車工業は車体・扉・窓ガラス・タイヤなど全部で2,500以上といわれる部品を集め，最後にそれらを組みたてて製品とする。機械工業は一般にこのような組みたて工業の形をとっている。このような生産工程であるから，部品は中小企業の下請工場生産し，親工場は大資本経営となることが多く，不況時は下請会社にしわよせされ，社会問題となりやすい。

あそかさんたい 阿蘇火山帯 九州の雲仙岳・多良岳・九重(ここのへ)山・阿蘇山から，瀬戸内・四国の北部を通り，紀伊半島に及ぶ火山帯として長い間認められていたが，今では，わが国の火山帯から除外されている。これまで阿蘇火山帯に含まれていた阿蘇山は霧島火山帯に，雲仙岳・九重山などは白山火山帯に所属された。阿蘇火山帯の除外によりわが国の火山帯は七つとなった。

アタカマさばく Atacama 砂漠 南アメリカのチリ北部，太平洋側に位置する砂漠*。アンデス山脈の西ろくで，アンデス山脈と海岸山地にはさまれた南北に長い砂漠*。海拔1,000mぐらいの高さ。砂漠の堆積層の中にホウ砂・岩塩*などを産し，特にチリ硝石*の産地として名高い。チリ硝石は窒素肥料*や火薬原料としてイキケ・アントファガスタから世界各地へ大量に輸出していたが，空中窒素の固定法による硫酸合成法や，製鉄・ガス工業の副産物として窒素肥料の製法が発明され，輸出量は減少した。

あたん 亜炭 かつ炭*の一種で，木質の状態が残っているものをいう。炭化の程度が低く，発熱量は約4,000カロリーである。水分・灰分の含有量が多く，燃料や原料に用いるには不適當。

アーチダム arch dam 水圧を谷の兩岸のダム*の基部で支えるように設計し，貯水池側に弧状につきだした形のダム。弧状にすると厚さの薄い堤防*でも水圧に耐える。コンクリート重力ダム*(日本で最も多い型)よりもコンクリート量が半分以上ですみ費用が安い。アメリカ合衆国のフーバーダム*・黒部ダム・宮崎県の椎葉(しい)ダムはこの例。

アッシリアぶんめい Assyria 文明 チグリス川・ユーフラテス川の中流地域を中心に発展し，B.C.8世紀ごろ強大なアッシリア帝国を作ったセム族の文明。それはオリエント史上の一時期を画するもので，くさび形文字の発明，王宮の装飾彫刻に特色があり，図案的・写實的な表現は世界の彫刻の傑作といわれる。

あとくわいち 阿斗桑市 わが国の最も古い市の一つで，大化改新以前にすでに大和(奈良県)にあった。物資の交換が行なわれた所で，その場所については定説がない。大和にはこれと同様に古い軽市*(けいし)・三輪市(さんりん)・海柘榴市(かいじゅうし)があり，河内(かわち)には餌香市(じか)があった。

あとさく 後作 =裏作

アトランティス Atlantis かつて，大西洋上に存在したといわれる伝説の大陸。それはアメリカ大陸の東，ヨーロッパ大陸の西のジブラルタルの西方にあったと考えられている。ヨーロッパ文明の源流ともいわれる高度の文化を築いていたという。アトランティスのあった大陸は紀元前1万年頃，突然，海のなかに沈んでしまったと伝説的に語られている。最近になって，この伝説的な大陸に関する研究が地質学など関係科学によって進められている。

アナトリアぞく Anatolia 族 トルコ内部の乾燥地アナトリア高原に住む牧畜民族*。アジア人種*のうちのトルコ族*に属す。11世紀にセルジューク族が南はペルシア湾，東はインダス川，西はシリア・アナトリアを征服した。その一部がアナトリアに人種島*を作った。→オスマントルコ人

アナトリアてつどう Anatolia 鉄道 ボスポラス海峡に面したトルコのイスキタルと，コンヤを結ぶ鉄道で，イスタンブールとバスラを結ぶバグダッド鉄道の一部となっている。ドイツが第一次世界大戦前，東洋政策の一環として計画した3B鉄道(ベルリン-ビザンチウム-バグダッド)の一部である。

アニミズム animism 自然現象や事物，たとえば山川草木などに靈魂があるとす原始民族の宗教的考え方。人間の靈魂の考え方を動植物・岩石・川・天文現象などの自然物や自然現象に適用して，自然崇拜*を行なう。アフリカ人種の未開社会*，古シベリア

族*などにみられる。古代の日本人が山や大木を神として崇拝したのもこの例である。

アネクメネ Anökumene 無居住地域・非居住地域と訳し、地球*の表面で人類が住んでいない地域*をいう。現在では砂漠地方や両極・高山地帯などがこれにあたり、人類文化の進展とともに、アネクメネはしだいにせまくなっている。→エクメネ

あねったい 亜熱帯 熱帯*と温帯*との中間の気候帯。両半球の回帰線を中心とした帯状の地域。亜熱帯気候の分布領域。大部分は乾燥気候地帯で、地中海性気候区の一部と季節風気候区の一部を含む。→亜熱帯季節風気候・亜熱帯冬季少雨気候

あねったいおんたいきせつふうがた 亜熱帯温帯季節風型 ケッペン*やトレワース*の作った気候型*をもとにして、日本の地理学者が唱えた大陸東岸にみる気候型。→亜熱帯季節風気候・温帯季節風気候

あねったいかんそうりん 亜熱帯乾燥林 夏季高温乾燥な地中海性気候*下にみられる常緑の厚い広葉樹*の低木林。冬の寒さが弱く、夏の乾燥も長くは続かない気候*のもとでは新しい葉がでるのは雨季のはじまる秋で、開花は雨季のおわる春。夏の乾燥に耐えられるように、樹林はまばらで広く根をはり、地中から水分を吸収する。また、厚い樹皮やなめらかな厚い葉をもち乾燥に耐える。コルクガシ*・オリーブ*などが代表的な樹木。

あねったいきせつふうきこう 亜熱帯季節風気候 亜熱帯冬季少雨気候ともいう。季節風*のため夏に雨の多い気候型*。華南からインド-シナ半島*の北部、ヒンドスタン平原*などが代表的な気候区*。同型のものがオーストラリア北東岸にある。気温の点では似ているが、雨の降り方があまり夏に集中しないアメリカ合衆国のメキシコ湾岸、ブラジル南部、南アフリカ東岸の気候をも亜熱帯季節風気候とよぶ場合がある。

あねったいこうあつたい 亜熱帯高圧帯 =中緯度高気圧帯

あねったいとうきしょううきこう 亜熱帯冬季少雨気候 =亜熱帯季節風気候

あねったいのうぎょうちたい 亜熱帯農業地帯 亜熱帯*の気候*に適する農作物の栽培地域。インドのガンジス川下流域の米*・チャ*・ジュート*などの農業地帯。華南の米の二期作*・チャ地帯。台湾の米・甘蔗*（糖）・バナナ*・チャ地帯。アメリカ合衆国のメキシコ湾岸からフロリダ半島にかけての湿潤亜熱帯*作物地帯。これらの農業地帯が代表的な亜熱帯農業地帯である。→湿潤亜熱帯作物地帯

あねったいむふうたい 亜熱帯無風帯 =中緯度高気圧帯

アネロイドきあつけい aneroid 気圧計 無液気圧計ともいう。水銀を用いない気圧計・晴雨計のこと。構造は浅い円筒の内部に真空の金属のかんがあり、そのかんのふくらみが気圧の高低によって変化するのをてこで拡大して針に伝え、その針の動きで気圧を測定する計器。小型軽量で運搬に便利のため、登山や簡単な比高*を測定する場合にも使う。大型の構造のものは自記気圧計として使う。

アバカ abaca =マニラアサ

アバダン Abadan イランの南西部、イラクとの国境近くのアバダン島にある世界的に名高い精油都市。イランの石油*の積み出し港。マイダナフツーンやハフトケルなどの油田*から油送管*が通じ、ここに集油し精製する。かつてのアングロイラニアン石油会社の大精油工場である。

アパルトヘイト apartheid 南アフリカ共和国の人種隔離政策をいう。人種差別政策の歴史は古く、白人優先の国として知られる。特に第2次大戦後、国民党が政権をとってからは著しく、共産主義弾圧条令・人種交流禁止法など多くの抑圧的法令がだされ、1,100万人のアフリカ人、150万人のカラード*、50万人のアジア人など非白人の政治的権利を取り上げた。特に人種分離隔離法等によってアフリカ人は白人居住地から追いだされ、職業的にも極度の差別をつけられている。

アフガンじん Afghan 人 広義にはアフガニスタンに住む諸民族を含めたアフガニスタンの国民をさし、狭義にはパターン・プシュトとよぶ民族*だけをさす。皮膚は白色・長頭、青い目、茶かっ色の髪、高い鼻をもつアーリア人*に近いものから、短頭・短身・わし鼻型、黒色の皮膚のヒンズー族*に近い型まである。言語はペルシア語を用いる。東部国境地帯では部族制度をもち、農耕を行ない、草原地方では遊牧*を行なう。

アプトしききどう Abt 式軌道 スイス人アプトの発明した急勾配の土地に敷設する軌道。軌道中央に歯止め用に鋸歯(ぎ)状レールを設け、機関車の歯車をこれにかみあわせて、車軸のから回りを防ぎ進行する装置。わが国では信越線の碓氷(づ)峠の急勾配(1000分の66)にこれを採用したが、1963年、新軌道の敷設と、強力な電気機関車の使用によって廃止された。

あぶらやし 油椰子 熱帯アフリカのギニア湾沿岸を原産地とするヤシ科植物の一種。幹は高さ約20m、頂部に長さ3~7mの葉が密生し、果実は卵形で人頭大、小果実は長さ約4cm、50%ほどの油を含み、しぼって油をとり、ろうそく・せっけん・マーガリンなど、用途は非常に多い。主産地はナイジェ

リア。

アフリカけいざいいんかい Africa 経済委員会 ECA (Economic Commission for Africa の略)。マダガスカルを含むアフリカ地域の経済開発と経済問題解決のために設置された国連経済社会理事会の補助機関である地域経済委員会の一つ。1958年設置。事務局はエチオピアのアジスアベバにある。加盟国はアフリカの47か国。このほかイギリス・フランス・スペインや植民地が準加盟国となっている。南アフリカ共和国は1963年以降資格を停止されている。

アフリカけん Africa 圏 アフリカ人種*の生活圏。サハラ砂漠*から南のアフリカの大部分がその範囲で、一般に原始的な生活を営む。多くはフランス・イギリス・ベルギーの植民地であったが、第二次世界大戦後大部分が独立。

アフリカこくじん Africa 黒人
＝ネグロ

アフリカしょこくかいぎ Africa 諸国会議 1958年ガーナのアクラで開催されたのを皮きりに、チュニス(チュニジア)・アジスアベバ(エチオピア)・カイロ(エジプト)等で開かれた。独立国・植民地を問わずアフリカ諸国の統一と団結、反植民地主義、生活の向上のための協力等が主目的。1963年にはアフリカ統一機構*(OAU)へ発展。

アフリカじんしゅ Africa 人種
＝ネグロ →人種区分

アフリカだいちこうたい Africa 大地溝帯 アフリカの東部を南北に通る大陥没地帯。南のニアサ湖から北方に延び、紅海を経てパレスチナ・北部シリアに至る溝状の陥没地に火山*が噴出して複雑な地形*を造る。キリマンジャロ火山(5,895m)は大地溝帯中にそびえ、赤道付近にあって氷河*をいただいている。この地溝帯は、アルプス山脈を造った運動と、ヒマラヤ山脈を造った運動による地殻の大水平移動のために生じた。

アフリカとういつきこう Africa 統一機構 OAU (Organization of African Unity の略)。アフリカ諸国の統一と団結の促進、植民地主義の消滅、諸国民の生活の向上のための協力を目的とした地域的国際機構。1963年に発足し、30か国が調印。主権の平等、内政不干渉、領土の尊重、紛争の平和的解決、破壊活動の禁止、非独立地域の完全解放、非同盟政策等の原則を守ることをうち出している。1980年現在南アフリカ共和国を除く50か国が加盟。

アフリカーナ Africana 南アフリカ共和国に住むボーア人のことをいう。移住したオランダ系白人の別称。

あへん 阿片 ケシ*の子房から採取し

たかった色の粉末。ケシのうち白花品種を晩秋に植え、夏に花がおわると子房から白色の乳状液を集め、乾燥させてかった色の粉末にする。この粉末は20～25%のアルカロイドを含み、その中にはモルヒネ・コデイン・ナルコチンなどが含まれる。これらのアルカロイドは麻酔用医療薬品の原料になる。

あへんせんそう 阿片戦争 英国と清国が阿片貿易をめぐる行なった戦争(1840～1842)。英国の東インド会社は18世紀末から清の唯一の貿易港であった広州を経て、インド産の綿花とアヘンを輸出していた。アヘンの害が中国に蔓延するにつれて清国政府は何度も禁令を発したが、ついに1839年密貿易者を処刑し、アヘンを没収し焼きすてるという強行策にでた。これに怒った英国は1840年6月戦闘を開始、広州をはじめに南京近辺まで攻め入り、1842年8月清国の敗北によって南京条約が結ばれた。広州ほか4港の開放、香港の割譲・賠償金支払いがその内容である。アメリカ合衆国・フランスも便乗して同様の条約を締結し、清国は領土を侵略されていた。

あま 亜麻 アサの一種で高さ約1mの一年草。アジア西南部の原産で繊維をとる重要な作物。この繊維で作られた織物をリンネルという。バルト海沿岸からソビエト連邦にかけては繊維用アマの栽培地。日本では北海道で栽培する。アマの種子は亜麻仁(あまご)といい、亜麻仁から亜麻仁油をとる。亜麻仁油は黄かった色で乾燥性が強いので塗料・ワニス・印刷用インキ・油絵の具などの原料とする。

あま 海女・海士 海中にもぐって海藻や魚貝をとる人。海岸から舟で沖にでて、数十回もぐると暖をとり陸に上がる。1回に1分以上、15～20mもの深さまでもぐることが多い。千葉県の大浜、三重県の志摩、石川県の鮎倉島(あやくらじま)、福岡県の鐘ヶ崎、長崎県の対島(たいじま)の曲(まが)などの海女が有名。アワビ・テングサ・ウニなどが主要な漁獲物。女子は海女、男子は海士と書くが、海人・海部・蟹・白水郎などとも書かれてきた。

あまにゆ 亜麻仁油 →アマ

あみぎょぎょう 網漁業 各種の網を使用して行なう漁業。つり漁業・海女(あま)漁業などの対語。漁業のうちでは最も大規模で、網には引き網*・敷き網*・刺し網*・巻き網*・出し網*などの種類がある。

あみもと 網元 網漁業*で網や漁船を所有し、漁業を行なう権利をもっている者。漁村で黒堀(くろぼり)や石堀で屋敷を囲んだ大きな家に住み、農業*における地主*のような社会的地位にある。網元は労働力を提供する網子とよばれる漁業労働者を雇い、操業する。不漁の時には賃金先払いのような特殊な関係で

雇われるので、網元と網子の関係は古い封建的な支配、被支配の形になりやすい。第二次大戦後、漁業制度改革などにより漁業権を失い、網元の勢力は衰えつつある。現在、この形態は大企業に受けつがれ、遠洋漁業*などの船主・船子の関係にあたる。

アミラン amilan ポリアミド系の合成繊維の一種で、1942年(昭和17)に日本で作ったナイロン*に似た合成繊維。漁網・ロープ・食器・絶縁用などに利用する。

アムンゼン Amundsen, Roald (1872~1928) ノルウェーの探検家。最初、北西航路による北極探検を行ない(1903~6)、磁石上の北極の位置を確認した。さらに、南極探検を行ない、人類最初の南極点に到達することに成功した(1911)。その後は航空機による極地探検をしばしば行なった。イタリアのノビレ将軍の航空機イタリア号が北極からの帰途遭難したことを知り、その捜索のためベルゲンを出発、スピッツベルゲン*に向かったまま行くえ不明になったことは有名。

アメリカいみん America 移民 →移民

アメリカインディアン American Indian 赤色人種・銅色人種・アメリカ人種・アメリカインド人・赤色インド人・アメリンド・インディオ、または単にインディアンともいう。スペインのアメリカ大陸発見以前からここに住んでいた住民の総称。髪は直毛、皮膚は銅色、モンゴル人*に近い。分布上四大別すると、1) 北米中部以北 アタバスカン・アルゴンキン・イロコイ・ダゴタ・プエブロなど、北縁のものはエスキモー*と、南部のものは白人と混血しているものもある。2) メキシコ・中米のアステック族・マヤ族 3) 南米パンパス型のインカ・チブチャ・ケチュア・カリブ・アラワク・パタゴニア*などの南米の各地。4) 南米南端のフェゴ族。起源はシベリアから移住したアジア人種*と、ヨーロッパ人種*(グリーンランドを経てアメリカに移った)と、ポリネシア人種*(南米からきた)との混血ともいわれている。ワシの羽・イノシシの牙(き)で頭部を飾りテントの部落を作り、牧畜*を行なう。古い時代に程度の高い文化を作った遺跡がある。

アメリカざい America 材 =米材
アメリカじんしゅ America 人種 =アメリカインディアン

アメリカめん America 綿 アメリカ合衆国で産出する綿花*をいう。品質の点ではエジプト綿*とインド綿*の中間。生産される綿花の種類は、陸地綿・海島綿*・エジプト綿の3種があるが、ふつうは陸地綿をさす。陸地綿には平均2.5cmの短繊維と、4cmぐらいの長繊維のものがある。短繊維の綿は

合衆国の綿花地帯*全域に栽培され、アメリカ綿の約90%にあたる。綿花地帯のうち、大西洋岸の諸州は海島綿を、メキシコ湾岸の諸州は短繊維の陸地綿を、その北方のミシシッピ諸州は長繊維の陸地綿を、カリフォルニア・アリゾナでは長繊維のエジプト綿を産する。アメリカ綿の植えつけは4月上旬、摘み取りは8月から12月まで。生産量はテキサス・カリフォルニア・ミシシッピ・アリゾナ・アーカンソー州などが多く、集荷都市は綿花地帯の大西洋岸、およびメキシコ湾岸の都市と、内陸部の主要都市である。品質の格付けは綿花の色・光沢・柔剛・長さ・太さなどによって政府標準の9種に分け、ジュート*製の袋につめて、6~8条の帯鉄をかけて包装し、俵状にして取引する。

アメリカ=ベスプッチ Amerigo Vesput'ci =ベスプッチ

あらいはくせき 新井白石 (1657~1725) 江戸時代中期の学者・政治家。上総(上野)の人。幕府の儒官となって幕府の政治に参与した。1715年(正徳5)に著わした『西洋紀聞』は3巻からなり、上巻はイタリアの宣教師シドッチとの対語、中巻は五大州誌、下巻は天主教の大意を記している。また白石には、『采覧異言*』(1692)の著や、『南島志』上下2巻、『蝦夷志』1巻の地理書もある。

アラスカこうろ Alaska 公路 1942年アメリカ陸軍工兵隊の建設した軍用および商業用の道路。カナダのドーソンクリークからアラスカのフェアバンクスに至る全長2,500kmに及ぶもの。これはテキサス州からパナマをこえ、アルゼンチンに至るパンアメリカン公路(全米公路*)に連絡するもので、政治的・経済的に重要な道路である。

アラビアゴム Arabia gum アフリカ北西部に産するマメ科・ネムノキ属のアラビアゴムの木の樹液。樹液は木の皮の部分から自然にしみだして固まったもので、アラビア人の手でヨーロッパへ送られたのでアラビアゴムという。切手などに使われる接着剤、織物や皮のつやだし、絵の具、顔料などに使う。

アラビアじん Arabia 人 アラブ人・アラブ族ともいう。アラビア半島に住む民族*。ヨーロッパ人種*のセム族で、数千年間外国と孤立して、自由放浪の生活をした。皮膚は暗黄色、髪は黒色。1~2世紀ごろから文化が栄え、7世紀ごろ3大陸にわたるサラセン帝国を作った。当時世界最高の文化をもち、数学・天文学・生理学・医学・薬学・化学のほかに、地理学*などが発達し、マホメットによる回教*の教典であるコーランの言語がアラビア語として広まった。→セム-ハム語族

アラブきょうどうしじょう Arab 共同市場 エジプト・シリア・ヨルダン・イラ

クの4か国が加盟国。域内外の貿易、労働の移動、運輸等の自由を目的として1965年発足した経済共同体。1962年アラブ連合・シリア・クウェート・ヨルダンによって結ばれた経済統合のための協定を土台に、1964年イラクが加わった。

アラブきょうどうぼうえいじょうやくきこう Arab 共同防衛条約機構 アラブ集団安全保障条約ともいう。シリア・ヨルダン・イラク・サウジアラビア・レバノン・エジプト・イエメンのアラブ7か国で結成した軍事ブロックで、1950年調印。加盟国に対する侵略には共同でその防衛にあたるのがきめられ、特に加盟国の軍事計画を結合する意図をもっている。この共同防衛条約は1945年カイロで結ばれたアラブ連盟の規約に基づいて結成されたものである。

アラブけん Arab 圏 =回教圏

アラブしゅうだんあんぜんほしょうじょうやく Arab 集団安全保障条約
=アラブ共同防衛条約機構

アラブしょこく Arab 諸国 アラブ民族と回教*で統一される国々。エジプト・モロッコ・南イエメン・アルジェリア・シリア・イラク・サウジアラビア・ヨルダン・レバノン・リビア・チュニジア・スーダンなどをいう。

アラブじん Arab 人 =アラビア人

アラブせきゆゆしゅつこくきこう Arab 石油輸出国機構 OAPEC (Organization of Arab Petroleum Exporting Countries の略)。1968年クウェート・リビア・サウジアラビアの3か国で設立。1967年の中東紛争のとき石油輸出国機構* (OPEC) はイスラエル寄りのアメリカ合衆国・イギリス・西ドイツに対し石油禁輸をうち出したが足並みがそろわず失敗し、これに対して3か国が結成したものである。目的は加盟国の利益擁護と石油産業の経済活動の協力の促進にある。3か国のほかにカタール・バーレーン・アブダビ・アルジェリア・イラク・シリア・エジプトの7か国、計10か国が加盟。

アラブぞく Arab 族 =アラビア人

アラブレんめい Arab 連盟 アラブ諸国の独立と主権を守るため、アラブ諸国結合の強化、政策の調整、経済・文化・法制的協力関係の促進などを目的として、1945年カイロで結成した連盟。最初シリア・ヨルダン・イラク・サウジアラビア・レバノン・エジプト・イエメンの7か国で発足、現在加盟国はこれら7か国のほかにパレスチナ解放機構(PLO)を含め22か国であるが、エジプトの資格は停止している。

アラムコ Aramco アメリカ系のアラビアンアメリカ石油会社(Arabian Amer-

ican Oil Co.) の略称。アメリカ系四大石油会社で構成し、1933年にサウジアラビアの大部分の地域の石油採掘権をえた。その期間66年間。採掘された原油は油送管*で積出港のラスタヌラ*およびレバノンのシドン*港まで送り、タンカーで西ヨーロッパやアメリカ東海岸に送られる。

あられ 霰 電*(ぎん)の小さいもので、雪あられと、氷あられがある。前者は冬、気温が0°C近くるとき雪とともに降るもろい白色の粒。後者は気温が0°Cより高いときに降るかたい氷の粒。積乱雲の中で小さい氷ができ、この氷が過冷却の水滴と雲の中で結合するとあられになる。

アーリアじん Aryan 人 アリアン族・アーリアン族ともいう。広義にはラテン・チュートン・スラブ・レト・ギリシア・ケルト・バスク・アルバニア・イラン・インドなどの諸民族をさし、言語分類ではインド-ヨーロッパ語族*という。狭義にはヨーロッパ人種*のうちの北方人種をさし、言語分類ではインド-ゲルマン語族という。皮膚は白色・黒かっ色・かっ色で、あざやかな色である。中頭・短頭が多く顔はだ円形。前額は広い。鼻は高く、あごは丸い。目は茶かっ色か青色、髪は柔らかくて波状または巻き毛で、茶かっ色からくり色・黒色。

アリアンぞく Aryan 族 =アーリア人

アリストテレス Aristotēles (384~322 B.C.) ギリシアの哲学者。プラトンの影響を受けたが、抽象的な思考をさけて観察と実験とを重んじ、自然科学の各分野を研究したので、自然科学の祖といわれる。彼は、月食の際に月面に映ずる地球*の影が常に円または円弧であること、エジプトやキプロス島では南の地平線近くに見える星が、それよりも北の土地では姿を消すこと、またエジプトやキプロス島では見えなかった星が、北の土地では北の地平線上に見えることから、地球が球体であることを実証した。

アリソフのきこうくぶん Alisov の気候区分 大気の大循環を基礎に、気団の配置とその境界をなす前線によって気候帯を分けたもの。アリソフやフローンが分類した。赤道から極へ赤道気団*・熱帯気団*・寒帯気団・極気団*と四分し、(i)年中赤道気団の卓越する赤道気候帯、(ii)夏に赤道気団、冬に熱帯気団の卓越する亜赤道気候帯(赤道季節風帯)、(iii)年中熱帯気団の熱帯気候帯、(iv)夏に熱帯気団、冬に寒帯気団の亜熱帯気候帯、(v)年中寒帯気団の中緯度気候帯、(vi)夏に寒帯気団、冬に極気団の亜極気候帯、(vii)年中極気団の極気候帯の7区分。日本は(iv)と(v)に属す。

ありたやき 有田焼 佐賀県の有田や伊万里(呉)で生産する磁器。豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、日本に帰化した朝鮮人李参平(李参平)によってはじめられ、陶土は有田の東北方の泉山のものを用いる。純白の素地にあざやかな絵つけをするのが特色。柿右衛門などによって改良された。生産量は多くないが九谷焼・清水(清水)焼などとともに有名。昔から伊万里の商人によって販売されたので、伊万里焼ともいう。

アルカリせいど alkali 性土 アルカリ土・塩類土・塩基性土壌ともいう。可溶性の塩類を多く含むために、アルカリ性を示す土壌*。一般に半乾燥ないし乾燥地域*の低地に分布する。アルカリ性は炭酸塩の存在に原因する。乾燥気候*のもとで、蒸発がさかんで、地下の重炭酸塩が地表に上って炭酸となる。また、泉水や海水から供給された炭酸塩が地表に集積したものもある。ソロネッツとソロンチャックとに分ける。前者は塩類とともに多量の炭酸ナトリウムを含み、アルカリ性が強く、後者は炭酸ナトリウムの含有量が少なく、アルカリ性反応が弱い。アルカリ性が強いと作物に害があるので、土地改良*が必要である。

アルカリど alkali 土 =アルカリ性土

アルケイデン archäiden 先カンブリア代*に褶曲*し、火成岩*が地殻*にはいつて生じた山地*を含む地域のこと。その後は安定して著しい変動をしていない。北ヨーロッパ・シベリア・南北アメリカ・アフリカなどにある。

アルコールこうぎょう alcohol 工業 水酸基を有する炭化水素を合成製造する工業*。発酵法と合成法がある。発酵法では糖みつや亜硫酸廃液やデンプンを発酵させたものから作る。合成法はエチレンを原料として硫酸などで化合させる。これまでは発酵法を主としたが、石油化学の発達につれて合成アルコール工業の進出が著しい。

アルザスロレーヌ Alsace Lorraine フランスの北東部のアルザス地方とロレーヌ地方の総称。古くはローマ領、その後フランス領→ドイツ領→フランス領と変わり、現在はフランス領。アルザス地方はロレーヌ地方の南部にあり、ブドウ酒・皮革・ガラス・綿布・毛織物を産する。ロレーヌ地方はザール*地方の南部にあり、ミネット鉱*とよぶかつ鉄鉱*の産地で、トーマス製鋼法*の発明により、鉄鉱の産額は世界有数の地位をしめている。いずれも経済上の要地。

アルタイごぞく Altai 語族 アルタイ山脈を中心に住む遊牧民族*。チュルク語族・モンゴル語族・満州ツングース語族の総括

的な呼び名。アルタイ語族の民族はトルコ・モンゴル・ツングース・満州・朝鮮・日本の各民族で、ユーラシア大陸の北部・中央部を東西に延びる地帯に住み、黒海からオホーツク海沿岸に及ぶ。人種的には短頭・中背で体格がよい。草原の周辺の諸人種と混血している。モンゴル族・ブリヤート族・トルグート族・カルムイ族・日本人など。この語族の文化を一般にアルタイ文化といい、B.C. 3000年にもさかのぼり、多くの遺跡・遺物がある。

アールティーエス RTS 修理技術ステーション・機械トラクターステーションともいう。ソビエト連邦の国営のトラクターなどの修理やコルホーズ*への技術援助を行なう機関。ソビエト連邦ではMTSがトラクター・コンバイン・カルチベーターなどの農業機械をもち、コルホーズの要請により、耕作や収穫に機動力を発揮していた。ところが、コルホーズの希望により 1958 年 3 月にMTSの農業機械をコルホーズ自身の所有に移す方針をとるとともにMTSをRTSに改組した。トラクターなどの修理や農業機械を購入できないコルホーズへの技術援助のほか、機械や部品・燃料・肥料などの販売も行なっている。

アルテリ arteli ソビエト連邦のコルホーズ*の 3 タイプ(トーズ*・アルテリ・コンムーナ)の一つ。これらは農家の土地・農機具・家畜などの所有共同化の度合いにより分けられ、コンムーナ型が最も共同化が強く、個人経営は認めない。現在のコルホーズは中間型のアルテリのみである。大部分の農地・農機具・家畜は組合の所有で、仕事も共同作業で行ない、収穫物は国家に収める分以外を組合員で分配する。住宅や小さな耕地、家禽などの私有が認められ、生活の補いとする。

アルパカ alpaca 南アメリカのペルー・エクアドルにすむラクダ科の動物。ビクナ・アルパカ・リャマ*(ラマ)・グアナコの 4 種がある。アルパカからは細く強いアルパカ毛がとれ、この毛で作った夏向きの衣服地をアルパカという。アルパカ毛と羊毛*、また綿糸と羊毛の糸でアルパカのように仕上げた布地もアルパカという。洋服やオーバーの裏地に使う。

アルハンゲリスク Arkhangelsk ソビエト連邦の白海に臨む港市*。北極海航路のヨーロッパ側の重要港で、モスクワまで鉄道が通じている。特に、付近は木材の産出が多く、製材業*がさかんで、木材の積みだしも多いが、冬季 6 か月間は海が凍るので、砕氷船*を使用する。

アルプ Alp =アルプス

アルファそう alfa 草 エスパルトともいう。アルジェリア(ババリア)地方に生育するイネ科の多年生植物。かご・帽子・

むしろなどの原料となり、現在は製紙原料としてオランから輸出する。

アルファルファ alfalfa マメ科に属する牧草*。アルファ草*とは違う。アルゼンチンのパンパ*で栽培している。強い耐乾性があり、タンパク質・ビタミンをはじめ、多くの栄養分に富むなど牧草としてすぐれた条件をもつ。宿根性の植物で高さ 40～80cm ぐらい。石灰質の土壌*に適し、3～4 月ごろ開花する。たとえば、南アメリカのパンパでは、最初はパンパ草で牧牛を行なっていたが、パンパ草では1頭のウシに約 3ha の牧場を要するが、アルファルファでは同じ面積で5～6 頭が飼育でき、しかも地力を回復する。そこでしだいに世界各地の牧場*で作るようになった。英国名ルーサーン、日本名はムラサキウマゴヤシ。

アルプス Alps 高地の牧場*のこと。フランス語でアルプ、ドイツ語でアルペン、イタリア語でアルピという。ヨーロッパ南部のスイス・ドイツ・フランス・イタリアなどで移牧*の行なわれる山の牧場のことをアルプスといったが、その後牧場のある高山のことをいうようになった。

アルプスじんしゅ Alps 人種 白色人種の一つ。皮膚はヨーロッパ人としてはふつうの濃さ。髪は波状で薄いかっ色かくり色。目は薄い色で青色は少ない。身長はヨーロッパ人としては低い。胴長で四肢は短い。短頭が特色。アルプス山脈を中心に、フランス中部・スイス・北イタリア・南ドイツ・ボヘミア・ハンガリーに分布する。

アルプスぜんざんちたい Alps 前山地帯 アルプスの北、前方にある丘陵地帯。アルプスの北部は、西ドイツ・オーストリアにのぞみ、ドナウ川の支流がアルプスから北東に流れているような地域である。ミュンヘンの南には広い森林があり、丘陵地は牧草地として利用されている。アルプスの北・前地にあたる牧草地、低い丘陵地帯の南には、アルプスが壁のようにそそり立つような景観を示している。

アルプスぞうざんうんどう Alps 造山運動 中生代*のジュラ紀*から新生代第三紀*にわたって行なわれた造山運動*。白亜紀*末から第三紀の初めに、北アメリカのロッキー山脈、南アメリカのアンデス山脈が生じ、第三紀中新世*のころに、ユーラシア大陸南縁に、アルプス山脈やヒマラヤ山脈が出現した。学者によっては、中生代の造山期と第三紀の造山期とを区別して、第三紀に生じた造山運動*だけを、アルプス造山運動とよぶこともある。わが国でアルプス造山運動に比較されるものは、第三紀におこった大八州造山運動で、北海道の日高山脈はこの運動によって生じ

た。

アルプス-ヒマラヤかざんたい Alps-Himalaya 火山帯 欧亜火山帯・地中海火山帯ともいう。地中海付近から、東方および南東方地域にある火山*の分布を表わす名称。トルコ・アラビア・イランからインド洋周辺、スマトラ島・チモール島に達する火山帯*を含む。環太平洋火山帯*に比べて、火山群が明りょうな帯状分布をしていない。1883年に噴火したクラカタア島のクラカタア火山は有名。またイタリア南部のベスビオ山*は79年の噴火で、ボンペイの町を埋めたので名高い。

アルプス-ヒマラヤじしんたい Alps-Himalaya 地震帯 欧亜地震帯ともいう。中国からヒマラヤ山脈・大カフカス山脈・小アジア・地中海を連ねる地震*の頻発する地帯。この地帯は主として大陸内にあるが、アルプス山脈から地中海に臨む急斜面をはじめ、大カフカス・ヒマラヤなどの急斜面の部分がこの地震帯にあたり、地殻*の変動が激しい地帯である。

アルプス-ヒマラヤぞうざんたい Alps-Himalaya 造山帯 欧亜造山帯・ユーラシア南縁造山帯ともいう。顕著な造山帯*の一つ。地中海沿岸のアトラス山脈・ピレネー山脈*・アルプス山脈から大カフカス山脈・ヒンズークシ山脈・カラコルム山脈・ヒマラヤ山脈へと続き、さらに南東方へインドシナの山地、スマトラ・ジャワの山脈に連なっていて、マライ諸島において環太平洋造山帯*と交さす。また地殻*の弱帯にあたり、地殻運動*の激しい地帯で、新期の大山脈が発達している。→アルプス造山運動

アルマジロずほう armadillo 図法 アメリカのロイスが1943年に考案した図法。ドーナツ状の回転体の外側の半面に地球*の表面を投影したのち、これを西経170°の経線*を母線として切り広げたものを、赤道面に対し、斜め15°の方向からながめたものに等しい図。図は正積でも正角でもないが、正射図法*と同様に立体感があるほか、南極大陸を除くすべての大陸が図中に収まる特色がある。図法の名、アルマジロはメキシコ産のヨロイネズミ(敵がくるとからだを丸める)の名からとった。

アルミニウム aluminium 純度99～99.8%の銀白色の金属。比重2.70。展性・延性に富み、電導度は銅*に次ぐ。ふつうは表面に酸化アルミニウムの膜ができて、空気中에서도安定している。アルミニウム製錬は原鉱石のボーキサイト*に水酸化ナトリウム液を加えて酸化アルミニウム(アルミナ)を作り、このアルミナを氷晶石とともに電気炉*中でとかし、炉底にたまったアルミニウムをく